

# 滋賀の高校生が選んだ！ しがはいすくーるおすすめ本50選

(2018年度優秀作品)

(氏名の有無は本人の希望です) (著者名は50音順に並んでいます)

発行2019年10月

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課



『少女は夜を綴らない』

逸木 裕 著  
KADOKAWA

中学3年生の主人公、理子には誰にも言えない秘密がありました。しかし、秘密を抱え怯えながら学校生活を送っていた理子の前に、秘密を知っているという中学1年生の悠人が現れたのです。悠人は、秘密をバラされたくなかったら父親を殺害する計画を手伝ってほしいと、理子を脅します。理子は、行動が読めない悠人に戸惑いながらも、心惹かれていきます。奇妙なのに、読み終えると心が温かくなっているような青春ミステリ作品です。

(国際情報高校1年 松村 和佳奈さん)



『シロクマのことだけは考えるな！-人生が急にオモシロくなる心理術-』

植木 理恵 著  
新潮文庫

忘れたと思うほどによみがえる思い出、なぜ次男次女は世渡り上手なの？フシギちゃんは どうして人気者なのかなど、日常で起こっている、いわれてみれば確かにそうだと思うことを心理学的に分析し、ベストな対処法を教えてください。人間関係がうまくいっていないかったり、最近何もいいことがないと感じが沈み気味な人にこそすめたい、小さな幸せと少しの元気を与えてくれる本です。

(守山高校 2年生)



『僕とおじいちゃん魔法の塔』

香月 日輪 著  
KADOKAWA/角川文庫

主人公の龍神は、親の言うとおりに「いい子」に生き、平和に過ごしていたが、何かモヤモヤするものを感じていた。そんなとき、龍神はサイクリングの途中で不思議な黒い塔にたどりつく。なんとそこには、死んだはずのおじいちゃんが住んでいた。自由奔放なおじいちゃんやそこに住む生き物たちとの不思議な出会いが、龍神の世界を広げていく。自分とは何か、善とは何か迷ったときに読んでほしい一冊です。

(MIHO美学院中等教育学校 5年生)



『最良の嘘の最後のひと言』

河野 裕 著  
東京創元社

月給500万円、年収8000万。採用条件はただ一つ。「超能力者であること」世界的な大企業「ハルウィン」が出した告知は、なんと「超能力者をひとり採用する」というものだった。最終試験に進んだ7人の超能力者(?)達はそれぞれ目的を達成するため、採用通知を奪い合う!能力を駆使しながら行われる騙し合いの中、最も不利な市倉は…。彼らの嘘にきっとあなたも騙される。「最良の嘘」が味わえる一冊!

(石山高校 1年)



『君の隣臓をたべたい』

住野 よる 著  
双葉社

私はこの本を読み生きることの大切さを知ることができました。主人公の山内桜良さんは脾臓の病気であと余命一年にもかかわらず、元気で明るく生きていく姿に私はとても心をうたれました。私もどんなにつらいときであったとしても明るく元気に毎日を過ごしたいと思います。そしてそんな桜良があこがれる人が同じクラスの本と毎日向き合うたくましい僕でした。僕が桜良の残り少ない人生を支え最後の物語を作っていく感動の物語でした。

(国際情報高校 1年生)



『君の隣臓をたべたい』

住野 よる 著  
双葉社

クラスで人気者の彼女とクラスで影のうすい僕。まるで光と影のような2人。でも、彼女の書いた共病文庫を拾って、彼女の秘密を僕は知ってしまった。彼女は脾臓の病気で余命があと少しみだ。その秘密を知ってしまった事をきっかけに、彼女の死ぬまでにやりたい事を一緒にするはめになった。いつも笑顔で、死を恐れていないような彼女。でも共病文庫には、彼女の本心が書かれていた。生きる事とは幸せとは何かを考えさせられる物語。

(国際情報高校2年 甲斐 風砂さん)

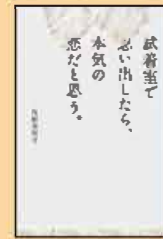


『陽気なギャングが地球を回す』

伊坂 幸太郎 著  
祥伝社

演説の天才、嘘を見抜く名人、スリの達人、精密な体内時計を持つ女。この四人の天才たちは銀行強盗だった……しかし、逃走中に同じく逃走中の別の強盗にお金を横取りされてしまう。愉快で陽気で個性的なこの四人が繰り広げる爽快なお話が、コミカルに生き生きと書かれています。ハイテンポで進むお話が本当におもしろいので、ぜひ読んでみてください。

(守山高校 1年生)



『試着室で思い出したら、本気の恋だと思おう。』

尾形 真理子 著  
幻冬舎

この作品は、ある服屋さんに来る4人の女性がそれぞれ恋の悩みを抱えていて、お気に入りの服を見つけ試着をしたとき、自分の思いに気づかされる物語です。かわい服を見つけ、着たときに一番最初に見せた人が好きな人である、という考えにとてもひかれました。私もいつか思わず試着室で思い出してしまうような本気の恋をしてみたいと思いました。

(守山高校 2年生)



『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著  
小学館

「何かを得るためには、何かを失わなければならない。」この本では余命宣告を受けた僕が突然現れた悪魔、アロハに1日の命の代わりにこの世界から何かを消すことを提案されます。生きるために消すことを決めた僕。世界からモノが消えていく。「人は失ってから、それがいかに大切なものか分かる。」でも失ってからではもう遅い。失ってから後悔しないように失う前から大切にしよう。そんなことを改めて気づかせてくれる本です。

(守山高校 2年生)

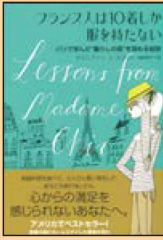


『万引き家族』

是枝 裕和 著  
宝島社

まず本の帯の「盗んだのは絆でした」という文に興味を惹かれたのがこの本を読むきっかけになりました。タイトルは「万引き家族」で悪いイメージが思い浮かぶかもしれませんが、中身は考えさせられる話で、読めば読むほどその内容に吸い込まれそうな話でした。特殊な方法で万引きをするシーンがあるのですが、決して犯罪を許すような結果になっていないし、そうせざるを得ない人たちがいるということをこの本は伝えてくれます。

(国際情報高校 1年生)



『フランス人は10着しか服を持たない』

ジェニファー・L・スコット 著  
大和書房

「1人のときこそ美しく振る舞う」、「沈黙を楽しむ」、「ほめられても謙遜しない」一度きりの人生、限られた時間の中でどうやって「楽しく」暮らせるだろう?この本は、誰もが憧れる国、フランスで実践されている日々の「暮らしの質を高める」ちょっとした習慣について書かれている。普段の生活で気軽にできるものばかりなので、毎日と同じ日々の繰り返しだと思っている人はぜひ読んで下さい。明日が来るのが楽しくなるはず。

(守山高校2年 河合 ひかるさん)



『阪急電車』

有川 浩 著  
幻冬舎

私がおすすめする本は有川浩さんの「阪急電車」です。電車に乗っているとスマホを見たり音楽を聞いたりして1人の時間を過ごしてしまいがちです。しかし同じ電車にいる人を観察してみると、意外な発見があることもあります。たった数分の移動時間の中の出会いがつくる物語。まるで自分もその電車に乗りあわせているような感覚で読むことができます。日々の出会いを大切にしたいくなる物語の世界へ、ぜひ乗車してみてください。

(守山高校 1年生)



『鴨川食堂』

柏井 壽 著  
小学館

あなたにとって忘れられない味はどんな味ですか。この本はそんな大事な思い出と共に記憶に残る料理をそっくり思い出のまま再現してくれる食堂の話です。新しい友達ができたり、ケンカしたり。どんな時も傍に食べ物の姿があります。過去には戻れなくても、一口食べると何度でも思い出させてくれます。私の一番の思い出として何だろう。そんなことを考えさせてくれる、読むとほっこりする一冊です。

(守山高校1年 大馬 蒼生さん)

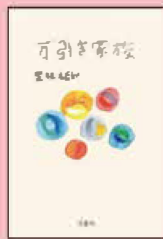


『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著  
小学館

郵便配達員として働く僕は突然、余命わずかだと宣告された。そんな僕の前に自分そっくりの悪魔が現れた。「この世界から何かを消す。その代わりに、あなたは一日の命を得ることができる。」僕は生きるために電話、映画、時計などこの世からあらゆるモノを消していった。「世界から猫が消えたなら」「世界から僕が消えたなら」この物語は身近な死について考えさせられる本だ。あなたならこの世界から何を消す?

(近江兄弟社高校 2年生)



『万引き家族』

是枝 裕和 著  
宝島社

「万引き」を仕事とする5人家族の柴田家ではいつも通り父の治と息子の祥太が仕事を終えて、家に帰ろうとしていた。しかし、帰宅途中に1人の女の子に会った。親から虐待を受けていた、りんと6人での生活が始まる。それぞれが複雑な事情をもっている6人の楽しく強い絆で結ばれた日々が繊細に描かれた一冊。そして、この本を読んだあなたは予想を覆すラストに涙するだろう。

(守山高校1年 山田 朋佳さん)



『エイジ』

重松 清 著  
新潮文庫

この本は私と同じ年代の中学生エイジが自分の住む町で起きた連続通り魔事件の犯人がクラスメイトだったことをきっかけに、家族や友だち、好きになった女の子へのそれぞれの思いに揺れながら成長していく物語で、14歳というナイーブでキレイやすく時限爆弾のような心情が描かれていて、変わっていくことの大切さと変わらないことの尊さを考えることのできる青く若い今を生きる自分達にぴったりの本だと思った。

(長浜北星高校 1年生)



『ぼくらの七日間戦争』

宗田 理 著  
KADOKAWA/角川文庫

このお話は明日から夏休みというある日のこと、主人公達が行方不明になるところから始まります。誘拐か?事故か?と思っていたら主人公達は校則で抑圧する教師や勉強を押しつける親に対し反抗するため解放区という廃工場に立てこもり、大人たちへの反逆をするという話です。子どもなら誰でも思うような大人への不満をストレートにぶつけてくれて読んでいてとてもスカッとなります。みなさんもこの本を読んでスカッとしてみてください。

(国際情報高校 2年生)



『君の名前で僕を呼んで』

アンドレ・アシマン 著  
オークラ出版

私がこの本を読むと思ったきっかけは、あるインスタグラマーが紹介をしていて、表紙が素敵だなと思ったからです。この本は、十七歳の少年エリオと博士課程の学生オリヴァーとの情感や情熱がとても溢れる恋模様のお話です。この二人は男性です。今、LGBTについてよくニュースを見ます。この二人の男性が恋に落ち合うという事は珍しいがおかしいことではありません。この本を通して、改めてLGBTを深く考えられると思います。

(国際情報高校 2年生)



『拝啓、十年後の君へ。』

天沢 夏月 著  
KADOKAWA/メディアワークス文庫

「タイムカプセルによって繋がる迷える高校生6人の青春物語」というキャッチコピーの小説です。章ごとに主人公が変わり、その主人公がタイムカプセルによって少しずつ自分の運命を動かしながら向かってがんばっていきます。「君がやろうとしたことを、君自身が笑ってやるなよ」というような人を勇気づける素敵な言葉がたくさんでてくるので、自分自身が同じような悩みをもったとき覚えておきたいと思える本です。

(国際情報高校1年 長谷 純奈さん)



『億男』

川村 元気 著  
文春文庫

大金を手に入れた人は必ず幸せになれるのだろうか。宝くじで三億円を手にした一男は、大金持ちの親友である九十九の家に行く。しかし、九十九に一男の三億円は持ち逃げられてしまう。一男は三億円を取り戻すため、波乱万丈の三十日間を過ごすことになる。はたして一男は三億円を取り戻し、お金と幸せの答えを見つめられるのだろうか。偉人の名言、お金にまつわる知識、最後には感動ありの一冊だ。ぜひこの感動を味わって頂きたい。

(近江兄弟社高校2年 佐藤 里桜さん)



『億男』

川村 元気 著  
文春文庫

もし、3億円が手にはいたら…と考えることはだれしもあるかと思っています。この本は、3千万円の借金をしている男が、宝くじを当て、一瞬で借金男から億男になる物語です。しかし、億男になったとはいえ、必ず幸せになるとは限りません。はたして、主人公は幸せを手にすることができるのでしょうか。

この本を読んで、僕は、お金とは何かということを考えるようになりました。

(近江兄弟社高校 2年生)



『君が落とした青空』

櫻 いいよ 著  
スターツ出版

今日を不機嫌に過ごしていた主人公の実結。付き合って2年を迎える彼氏の修弥と放課後デートをするが、修弥が交通事故に遭ってしまう。気がつくとき昨日と同じ一日が始まっていた。「今日は毎回、必ず終わりを迎える」がその中で実結の心境に変化が。「新しい明日には、修弥はもう、いないかもしれない」と思われる実結。今日もまた修弥は交通事故でいつものように倒れている。「それでも、私は笑い続けたい。」と心に誓う。

(守山高校1年 宮武 のぞみさん)

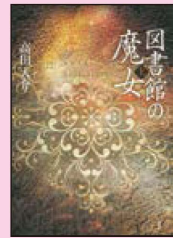


『天国までの49日間』

櫻井 千姫 著  
スターツ出版

主人公の安音がいじめに苦しみ自殺をしてしまう。そして、死んだ後四十九日間魂だけで現実世界に戻れると天使に言われる。生きていた頃の友人洋人は霊感が強く、安音のことが見えた。そこで二人は一緒に過ごし、遊んだり、話したりした。二人で過ごすうちにだんだん死んだことを後悔するようになり、最終的に恐怖におそわれる。二人の絆がつかない様々な出来事一つ一つが考えさせられること。いつのまにか涙してしまう作品です。

(国際情報高校 1年生)



『図書館の魔女』

高田 大介 著  
講談社

山育ちの少年キリヒトは、一ノ谷の図書館の魔女マツリカに仕えることになる。人々に恐れられる彼女は、まだうら若き少女だった。声を出せない彼女は手話によって雄弁に言葉を紡ぎ、類い稀なる頭脳を駆使して一ノ谷の危機に立ち向かう。言葉とは何か、図書館とは何かなど、考えさせられること間違いなし。剣も魔法も出てこない、扱うのは「言葉」だけ。独特の世界観と魅力的な登場人物により目が離せない、超弩級異世界ファンタジー。

(膳所高校 2年生)